

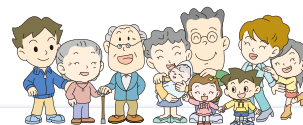
村田康成県議会活動報告

VOL.1

2020/4/11

村田康成事務所

〒314-0408 茨城県神栖市波崎1251 TEL:0479-21-9331 FAX:0479-21-9332



1977年8月20日生まれ(42歳)O型
2012年 神栖市議会議員初当選
2016年 神栖市議会議員二期当選
2018年 鹿行広域事務組合議会 議長
2018年 茨城県議会議員初当選

家 族……妻・両親・愛犬・愛猫
趣 味……旅行・盆栽
座右の銘……至誠奉公
性 格……頑固

Profile



現在は、激動の時代、将来の見通しのつかない時代などと言われることもあります。けれども私は、そのような時代だからこそ、鹿行地域、そして私たちの生活する神栖市の現状と課題から目をそらすことなく、しっかり向き合うことが大切だと考えております。

そして、その課題の改善策・解決策について、世代を超えた多くの方々と話し合い、手を取り合って、「希望に満ちた神栖市の未来」を創っていきたいと思います。茨城県の県政運営の指針「県総合計画」では、「活力があり、県民が日本一幸せな県」という目標が掲げられておりますが、私は、今の時代いちばん大事なことは「県民、市民の皆様の安心で安全な生活」を守ることだと考えています。私たちの「幸せ」は「安心で安全な生活」があってこそ、ではないでしょうか。

鹿行地域や神栖市では、地域医療体制、防災体制などの面を含め、まだまだ多くの課題があります。これらの課題を解消し、子どもからご老人まで、住民の皆さんが安心して暮らせるよう、これからも県議会議員として、初心を忘れず、一生懸命に活動していきます。

神栖市 希望
HOMEがHOPEであふれるように!

初年度県議会における調査項目要約

- 組織改革(旧事業推進課)とその後の現況について
- 宇宙ビジネスについて
- 水素戦略について
- 鹿島再資源化センターを含めた地域の廃棄物行政について
- 防災・災害時におけるマイマップ・タイムラインと住民避難行動の課題
- 消防指令センターの運営実績と今後について
- 災害時における国のガイドラインと住民避難行動について
- 医師確保と地域偏在について
- 鹿行地域の地域医療の課題と対策
- 神栖済生会病院と鹿島労災病院の現状と課題
- 市内県立3校の現状と課題
- 鹿島地域における特別支援教育の課題と充実
- 台風15号の被害とその対応と検証について
- 常総市民間事業所火災について
- 国・県の目指すsociety5.0no社会とは
- eスポーツの今後の展開について
- 人手不足と外国人労働支援センターについて
- 水道・企業局特別会計の監査指摘事項について
- 鯉川浄水場の非常用電源設備の必要性について

- 県立病院の経営状況と一般会計繰り入れについての考え方
- 茨城県の財政状況と県債について
- 行財政改革・人事・働き方について
- サイクリングプロジェクトとナショナルサイクルルートについて
- 医師不足・偏在の解消と地域枠(医師修学資金貸与)制度について
- 県外への高校進学における流出の課題について
- 土木事業における資材及び労務単価調査について
- 「県民が日本一幸せな県」を実現するための政策展開と予算編成のあり方
- 茨城県の公共施設の老朽化対策の展望
- 自然災害への備えと対応策について
- 浄水場における非常用電源設備の新設について
- 神栖市における冠水対策について伺います。
- 日本一のピーマン産地に対する台風被害への支援
- 鹿行医療圏における地域医療の充実と神栖済生会病院における医療提供体制の充実
- 「日本一の水産のまち」の実現に向けた波崎漁港の整備・活用の推進について
- 鹿島開発の達成としての鹿島臨海工業地帯のさらなる発展について
- 神栖市における高校教育の課題と環境改善に向けた取り組みについて

現在、新型コロナウイルスの影響により様々なイベントなどが自粛・中止になっております。沈静化の状況を見ながら活動報告会を行う予定でおります。

村田康成 初年度活動の記録

- 2018年12月 茨城県議会議員初当選
- 2019年1月 防災環境産業委員会／予算特別委員会／決算特別委員会…所属
- 2019年6月 予算特別委員会…質疑
- 2019年9月 決算特別委員会…質疑
- 2019年11月 決算特別委員会…質疑
- 2019年12月 総務企画委員会／[その他]情報委員会…所属／一般質問…質疑



2019年12月
一般質問

「県民が日本一幸せな県」の実現

「安心と安全」を
県内のすみずみに届けることが
県民の幸せを守ることでは？



村田康成

- ◎大井川知事は就任後、「活力があり、県民が日本一幸せな県」を目標に掲げて、県総合計画を策定した。
- ◎私も「県民の幸せとは何か」について考えた結果、「安心と安全」を県内のすみずみに届けることが県民の幸せを守ることである、という結論に達した。
- ◎私は、これからは「自然災害が多発、激甚化する新しい時代」だと考える。知事には、この新しい時代を前に、もう一度「県民の幸せとは何か」考えてもらいたい。
- ◆知事は、「県民の幸せ」をどう考え、今後どのように県の政策を展開していくのか。



挑戦を
繰り返す
喜びだ!!



大井川知事

- ◎私のモットーは「挑戦する茨城県」である。県民一人一人が未来に希望を持ち、挑戦を続けられることが幸せである、と考えている。
- ◎県総合計画に掲げた「新しい豊かさ」「新しい安心安全」「新しい人財育成」「新しい夢・希望」の4つのチャレンジに優劣は付けられず、「新しい茨城づくり」に向けて一体的に進めることが不可欠である。
- ◎予算の「選択と集中」を徹底しながら、大規模災害への対応については、国とも連動して県民の安心安全の向上を図っていく。

茨城県の 防災対策や 計画について

2019年9月
決算特別
委員会



自然災害への備えと対策 浄水場への非常用電源設備の新設

村田康成

- ◎先の決算特別委員会に続いて、2度目の問いかけとなるが、今年の台風第15号で鰐川浄水場が停電し、一時的に水が供給停止したのは衝撃だった。
- ◆生活水の安定供給は、県民の安心安全な生活にとって大変重要な問題である。県は、浄水場への非常用電源設備の新設にどう取り組むのか。
- 県企業局長
- ◎すでに整備に着手している県西地域に加え、県南、鹿行、県央地域でも非常用電源設備を設置する必要があると認識している。
- ◎特に、神栖市を含む鹿行地域では、水道水を供給している5市全てから必要との意向があるため、非常用電源設備を設置する方向で検討を進めていく。

神栖市内の道路への冠水対策

2019年12月
一般質問

村田康成

- ◎神栖市では繰り返し、道路が浸水、冠水の被害を受けてきた。県道117号線沿い、太田地区から矢田部地区にかけての旧国道沿いなどは、特にそうである。
- ◆県には、それぞれの道路を所管する国や地元市と連携し、一刻も早く冠水被害地域への対策を進めてもらいたい。どう取り組んでいくのか。
- 県土木部長
- ◎神栖市内では、県道117号深芝浜波崎線の波崎地区と国道124号の太田地区、その他2カ所の計4カ所で、側溝整備などの冠水対策事業を実施している。
- ◎市の管理する道路の排水整備も含め、地元市と連携して神栖市の冠水対策に取り組んでいく。

台風によるピーマン被害への支援

村田康成

- ◎神栖市は日本一のピーマン生産地域だが、今年の台風で大きな被害を受けてしまった。
- ◎国、県、市町村それぞれから台風被害への支援策が出されているが、どう活用したらいいかわからないという声もある。
- ◆県には、農家の方々の声にしっかり耳を傾け、対応してほしい。
- 県農林水産部長
- ◎農業用ハウス再建・修繕の支援策を引き続き周知し、普及指導員が巡回訪問する際には、被災農業者の相談に対応していく。
- ◎ピーマンの作付までに農業用ハウスを復旧させるため、被害状況などの証拠書類の保存を条件として、国の補助金交付決定を待たずに復旧工事に着手できることも周知し、すみやかな営農再開を支援していく。

鹿島地域における 学校教育の 充実について

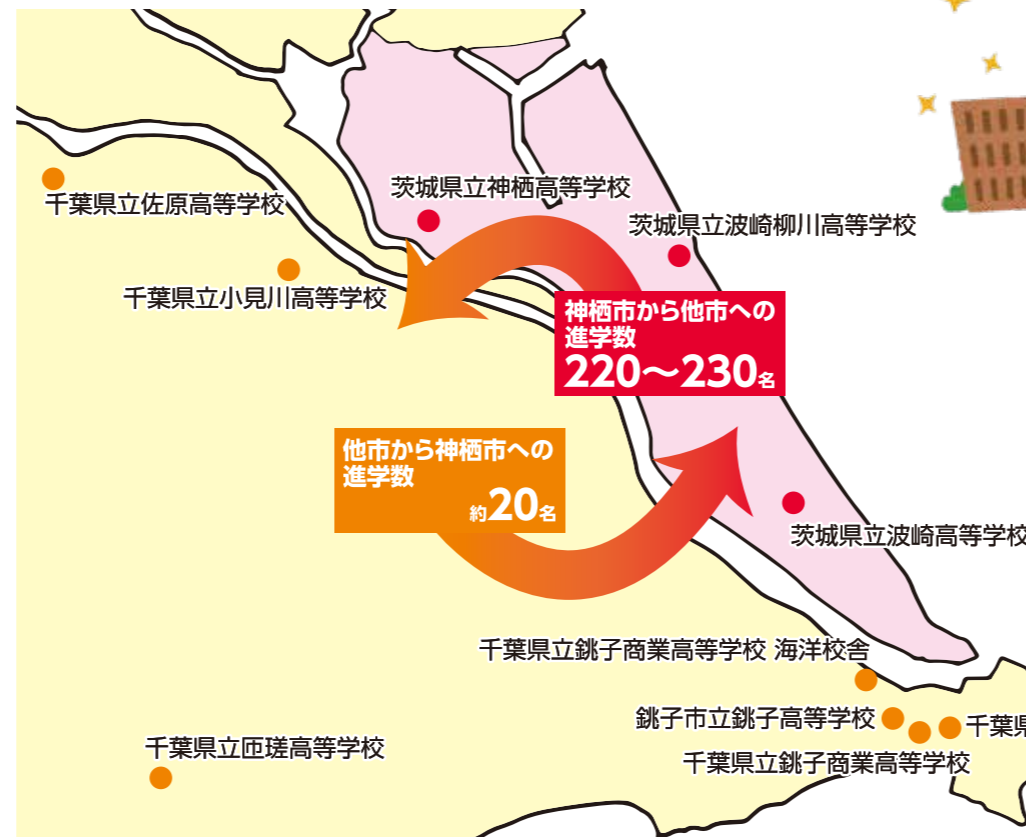
2019年6月
予算特別
委員会

鹿島地域における 特別支援教育の充実



村田康成

- ◎鹿島地域に居住する障害のある児童・生徒が通学できる特別支援学校は、鹿島特別支援学校のみであり、波崎地区からは、子どもたちが約80分以上かけて通学している。
- ◎鹿島特別支援学校の生徒全体のうち、約4割を占めている神栖市から通学する子どもたちの負担を軽減するため、神栖市内への分校の設置も検討してもらいたい。
- 県教育長
- ◎神栖市内の分校設置は、子ども達にとって通学の負担軽減につながると思うが、県内には他の特別支援学校もあり、その課題も解決していく必要があるため、分校設置には慎重な検討が必要だと考える。



神栖市における高校教育の課題と 環境改善に向けた取り組み

2019年11月
決算特別
委員会

村田康成

- ◎県では中高一貫校の整備を進めているが、選定された鹿島高校や銚田一高は、神栖市から非常に遠い。
- ◎市内を見れば、学力が高く、大学進学を目指す子ども達ほど県外に進学している。県外の中学校から市内の高校への入学者が約20人、市内から県外へは200人以上に上る。
- ◎将来の神栖市、茨城県を担う人材を育てるため、県は、神栖市の高校教育をどう充実させていくのか。
- 県教育長
- ◎神栖市では、中学校卒業生の多くが県外の高校に進学している状況があるため、さらなる魅力づくりが必要と考えている。
- ◎今後も、3校の特色ある取り組みを充実させるとともに、いばらき高等学校学力向上推進総合事業などにより教育環境を向上させ、進路実績を積み上げて、地域の期待に応えていく。



神栖・鹿島 鹿行地域における 医療問題について

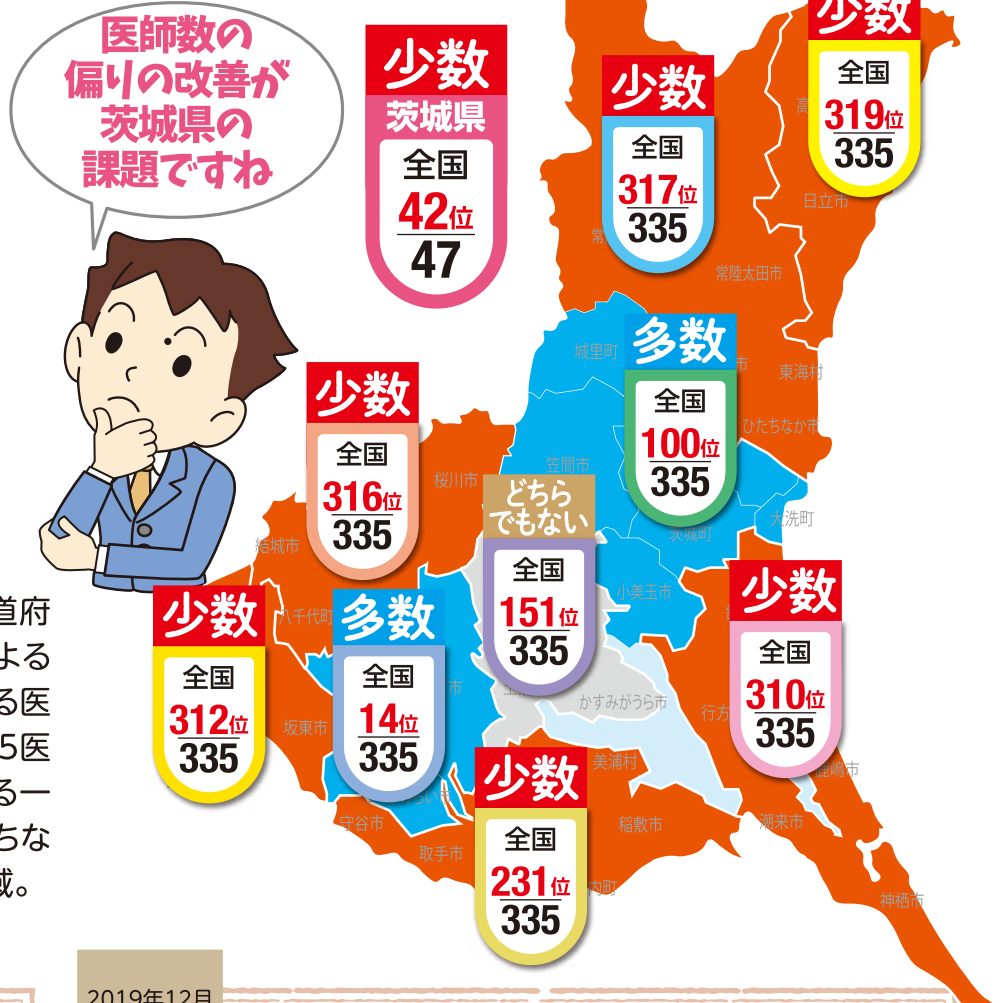
2019年6月
予算特別
委員会

医師偏在の新たなものさし「医師偏在指標」の計算式を了承 ——医師需給分科会

医師偏在指標は、現在・将来人口を踏まえた医療ニーズに基づき、地域ごと、診療科ごと、入院外来ごとの医師の多寡を統一的・客観的に把握できる、医師偏在の度合いを示す指標のこと。これまで、地域ごとの医師数の比較には、人口10万人当たりの医師数が用いられているが、医療ニーズや人口構成の変化などの要素が考慮されておらず、医師の地域偏在・診療科偏在を統一的に測る「ものさし」になっていない—との問題意識から新たに導入されることになった。

二次・三次医療圏	医師偏在指標	全国順位	区域
全国平均	239.8	—	—
茨城県	180.3	42	少数
つくば	350.3	14	多数
水戸	203.5	100	多数
土浦	183.5	151	—
取手・龍ヶ崎	159.9	231	少数
鹿行	130.1	310	少数
古河・坂東	128.4	312	少数
筑西・下妻	125.9	316	少数
常陸太田・ひたちなか	125.6	317	少数
日立	124.9	319	少数

厚生労働省より発表された三次医療圏別(47都道府県)、二次医療圏別(全国335)の医師偏在指標によると、茨城県は全国で第42位で下位33.3%に含まれる医師少数県。二次医療圏では、つくば、水戸が全国335医療圏の上位33.3%に含まれる医師多数区域である一方、取手・龍ヶ崎、鹿行、古河・坂東、常陸太田・ひたちなか、日立は全国下位33.3%に含まれる医師少数区域。



2019年11月
決算特別
委員会

医師不足解消へ向けた取り組み

村田康成

- ◎鹿行地域では医師不足が顕著で、救急救命の現場では、住民からの不安の声が絶えない。県として、県内の医師の偏りを無くし、各地域の医療を支える医師の確保を推し進めるべきと考える。
- ◎そのため、今後、毎年50人ほど医療現場に派遣される、修学資金貸与制度を活用した医師たちを、医師が不足している地域へ派遣してもらいたい。

県保健福祉部長

- ◎直近の国の医師偏在指標によれば、茨城県は全国で第42位の医師少数県であり、鹿行医療圏も、全国の医療圏の中で下位3分の1に入る医師少数区域であると示された。
- ◎新たに作成する医師確保計画に基づき、医師不足・医師偏在の課題解消については、地域医療対策協議会で柔軟な運用も検討を進めている。



2019年12月
一般質問

神栖済生会病院の医療体制の充実

村田康成

- ◎神栖市民は、神栖済生会病院が鹿島労災病院との再編統合後、地域の新たな安心安全の拠点となるのを待ち望んでいる。
- ◎神栖済生会病院には、経営改善を図るとともに、指導医などを快く派遣してもらえるような病院設備環境の充実・強化に努めてもらいたい。
- ◎県と神栖市には、全力で行財政的な支援に取り組み、病院経営の改善の様子も市民の目に見える形で示してもらいたい。県としてどう支援していくのか。

県保健福祉部長

- ◎再編統合後、神栖済生会病院では、医師3名、看護師26名、医療技術者9名が増加し、2019年度上期には、入院・外来患者数ともに約2割、救急搬送は約1割増加するなど、地域の中核病院としての機能が一定程度強化されたと考えている。
- ◎県でも、病院の医師確保を支援し、2020年1月に、常勤医師1名、非常勤医師1名の採用が決定したところである。
- ◎新病院の診療機能や施設・設備等を検討する基本計画策定委員会にも参画し、施設整備経費を助成するなど必要な支援を行っていく。